

B型肝炎→B型肝炎ワクチン

B型肝炎ウイルスは肝臓に感染して急性肝炎を起こしたり、持続感染(キャリア化)します。1歳までの感染はほとんどがキャリア化して将来肝硬変や肝臓がんを発症する可能性があります。

日本ではB型肝炎ウイルスの感染者は100万人(100人に一人)と推定されています。慢性肝炎になると長期に渡って治療が必要で肝硬変や肝臓がんなどの原因にもなります。また、急性肝炎から劇症肝炎を起こし死に至るケースもあります。日本では母子感染予防でワクチン接種されていましたが、父子感染や経路不明の感染で乳幼児が増えており平成28年10月から定期接種となりました。生後2か月からできますのでHib、肺炎球菌ワクチンと同時に進めてください。

B型肝炎ウイルスに感染すると急性肝炎を発症することがあり、1歳未満では1%、1~5歳では5~15%で劇症肝炎となります。

慢性感染(キャリア)は感染した時期が早い方がなりやすく、1歳までの感染の90%以上、1~5歳では20~50%がキャリア化します。キャリア化した後無治療の場合25%ぐらいが肝臓がんや肝硬変で死亡する可能性があります。